

授業概要

本講義では北米地域の近現代について講じる。近代は理念の時代である。すなわち個人の「自由」と「平等」の原則に基づいて世界の人々が分け隔てなく交流し、切磋琢磨して全地球的理想社会を造り上げるという崇高な理念である。それに対し、現代は近代の理念が現実によって見失われた時代である。巨大独占企業群と様々な利益団体そして官僚制国家が織りなす軍産複合体制同士の覇権競争という現実が、それである。この近代と現代との大きな矛盾を一身に体現しているのが、今日世界の超大国として君臨するアメリカ合衆国である。いまだその次の時代への展望を得ないまま、私たちは「近代」の理想と「現代」の現実との乖離がますます広がりつつある。本講義は、アメリカ合衆国の成り立ちと今日に至る政治、経済・社会の歩みを深く理解することを通して、自分たち自身が世界史においてどのような立ち位置にあるかについて深く考察することを目標とする。

授業計画

第1回	授業概要 受講心得
第2回	日本国憲法とアメリカ合衆国独立宣言との関係
第3回	ヨーロッパの植民地としての「新世界」＝南北アメリカ大陸 ① スペイン帝国時代
第4回	ヨーロッパの植民地としての「新世界」＝南北アメリカ大陸 ② イギリスの覇権
第5回	ヨーロッパの植民地としての「新世界」＝南北アメリカ大陸 ③ イギリスからの独立
第6回	合衆国独立宣言・合衆国憲法の矛盾：人権思想と黒人奴隷制度
第7回	合衆国の国制の矛盾：
第8回	「二つの矛盾」が引き起こした南北戦争
第9回	経済大国へ ① 19世紀末の「大不況」と合衆国経済の躍進
第10回	経済大国へ ② 第一次世界大戦後の「黄金時代」とその終焉
第11回	西側世界の盟主として ① 第二次世界大戦の勝利 核兵器開発 朝鮮戦争と東西冷戦構造
第12回	西側世界の盟主として ② 基軸通貨米ドル IMF
第13回	混迷する「超大国」 ① ベトナム反戦運動 公民権運動 「双子の赤字」 軍産複合性
第14回	混迷する「超大国」 ② 東西冷戦の終結 レイシズム
第15回	講義総括
第16回	筆記試験実施 論述式

到達目標

南北アメリカ大陸、特にアメリカ合衆国の歴史に関する基本事項を学び、それが現在の世界にどのように結びついているのかについて自身の意見を持ち、東アジアに生きる人間として、とくに戦後民主化体制の日本で生きる人間として、アメリカ合衆国の社会経済の成り立ちをしっかりと理解した上で、今後この地域とどのような関係を築くべきか積極的に発言できることを目標とする。

履修上の注意

高校「世界史」の知識を前提として講義を進めるので、あらかじめ知識のブラッシュアップに努めておくこと。また「西洋史学入門」や「西洋史概説」をあわせて受講することを推奨する。理解の深化を目的にレポートの作成を求められる。また知識の定着度を測るため小テストを計5回実施するので、もれなく受験すること。いうまでもなく無断での欠席・遅刻は厳禁である。

予習・復習

毎回講義時間の最後に、次回授業内容のキーワードを提示するので、それらについてよく下調べしておくこと。疑問点や不明な点があれば、授業内に質問コーナーを設けるので、ぜひ質問し解決を図ること。授業後知識の整理と習得のため、必ずノートをよく整理し内容の拡充に努めること。

評価方法

定期試験成績・小テストの成績・レポート成績を総合して評価する。配分割合は、定期試験60%、小テスト・レポートとも20%とする。

テキスト

特に用いない。参考文献については、必要に応じて授業内に随時紹介する。